

## 《2023年12月（通算326回） 限定サロン報告》

\*\*\*\*\*

# 2023 忘年会 兼 お宝映像上映会（ラグビー）

—1983年10月22日 ウェールズ vs 日本 @カーディフ—

\*\*\*\*\*

【日時】2023年12月9日（土）18:00～21:00 ごろ中締め（その場で2次会。～22:15 ごろ）

【会場】フットボール × ザンギ・バル「ブラセリエ BRAS SERIE」

【テーマ】2023 忘年会兼お宝映像上映会（ラグビー）

—1983年10月22日 ウェールズ vs 日本 @カーディフ

【参加者（サロン2002ファミリー）7名】★はNPO会員

奥山純一（会社経営）、小松章一（行政書士／スポーツボランティア）、★嶋崎雅規（国際武道大学）、田中俊也（三日市整形外科）、★茅野英一（かながわクラブ／NPOサロン2002 監事）、★中塚義実（筑波大学附属高校／NPOサロン2002 理事長）、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール）

【参加者（サロン2002ファミリー外）2名】

松本英樹（筑波大学附属高校）、松本みどり

### <目次>

- I. 趣旨と概要（サロン通信より）
- II. 当日の様子
- III. 参加者からのコメント（投稿順）

#### 【キーワード】

ラグビー、ラグビーユニオン、1983年、日本対ウェールズ、  
ルールの変遷、アマチュアリズム、プロ化、  
スポーツ観戦、スポーツバー、ブラセリエ、ザンギ  
お宝映像

## I. 趣旨と概要（サロン通信より）

### <サロン通信 2023年12月号>

2023.11.9.（中塚義実）

いつまでも暑かった2023年は、秋の気配をほとんど感じないまま冬支度の季節になってきました。

冬と言えば「忘年会」。サロン2002の場合はこれに「お宝映像上映会」が加わります。

期日と会場はすでにご案内のとおりです。12月9日（土）18時から、渋谷のフットボール × ザンギ・バル「ブラセリエ BRAS SERIE」で行います。参加希望者はSlack、ML、または中塚・事務局への直接メールでお申し込みください。15名で席を確保していますが、当日は満席が予想されます。早めにご連絡ください。

この日は国立競技場で天皇杯（サッカー）決勝「川崎フロンターレ vs 柏レイソル」が、味の素スタジアムではリーグワン（ラグビー）開幕戦「東芝ブレイブルーパス東京 vs 静岡ブルーレヴズ」があります。現地で盛り上がった勢いそのままに、ブラセリエへなだれ込むのがいいですね。

今回はサロンファミリー限定の「限定サロン」で、オンライン参加はなしです。

11月23日（木祝）の公開シンポジウムの参加申込みもお願いします。

## 《2023年12月 限定サロン（通算326回）案内》

【日時】2023年12月9日（土）18:00～20:30(?)（開演前後の追加ドリンクは各自オーダー）

【会場】フットボール x ザンギ・バル「ブラセリエ BRAS SERIE」

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-28-7 シャトレー松濤 B1

渋谷駅：徒歩10分、神泉駅：徒歩4分 ※添付チラシ参照

【テーマ】2023 忘年会兼お宝映像上映会（ラグビー）

－1983年10月22日 ウェールズ vs 日本 @カーディフ

【概要（理事長より）】

久々の対面での忘年会、そして「お宝映像上映会」です。これまでは懐かしいサッカーの試合を取り上げてきましたが、今年はラグビーワールドカップイヤーです。ラグビーのお宝映像はないかなと考えていたら、嶋崎雅規さんが「1983年のウェールズと日本の映像を持っていますよ」とのこと。これで決まり！

ここ数年でラグビーが大きく変化しているのを感じます。安全・安心、公平・公正という流れでしょうか。さらに言うなら1995年にラグビーユニオンがプロフェッショナリズムを受け入れたところから、世界のラグビー環境は激変しました。

今回のお宝映像は、プロ導入以前の、もっとも泥臭い時代のラグビーです。日本代表のウェールズ遠征における歴史的なゲームはいまだに語り継がれるものです。久々にみるのがメチャクチャ楽しみ！

あれは大学4年の秋でした。10月21日に大学院の合格発表があって進路が決まり、サッカーの方もシーズン終盤。筑波大Bチームにいた私は、10月22日は関東リーグの応援で西が丘サッカー場へ。いまは自転車で行けるけど、あのころは常磐線ですいぶん時間がかかりました。翌23日（日）に「体育系リーグ（当時こういうのがありました）」の日本体育大学との試合があるので、西葛西のおばさん宅に泊めてもらうことにしました。そこで朝早く起きて見たのがこのゲームです。

仲が良かったラグビー部員がみなこの試合のことを言っていたので、気になって見たのだろうと思います。はじめは半分寝ながらでしたが、そのうちこちらも興奮して見入ってしまったのを、おぼろげながら覚えています（学生時代の日記が押入れの奥から出てきたので、いろいろ思い出しているところです）。

久々のお宝映像上映会は、原則としてサロンファミリー限定ですが、「開かれた限定サロン」というイメージです。これを機に友人・知人に声をかけ、ファミリーを増やし、ネットワークを広げてください！

【参加申し込み】

今回はPeatixの設定は致しません。参加希望者はSlack、ML、または中塚・事務局への直接メールでお申し込みください。参加費（飲食代）は改めてご案内します（前回は2時間飲み放題4,000円＋食べ物代でした）。

【報告書】理事長がイベント報告としてまとめます。

## II. 当日の様子

### 1. プレイベント：天皇杯決勝（14:00 国立競技場）

茅野英一、中塚義実、松本英樹（筑波大附高保体科）と妻みどりさんの4名は川崎フロンターレ側の2階席。見やすい！

ちなみに田中俊也さんは柏レイソル側のコーナー付近で観戦とのこと。

国内最高峰といえる試合とあって、試合前の演出は凝っている。両クラブのサポーターも盛り上がる。勝利の先に ACL があるのも両クラブの大きなモチベーションとなっているだろう（「カネがかかる」ので頭を悩ませるスタッフもいるだろうが…）。

試合は両チームとも「負けたくない」からか、前半を慎重に進める。それが後半半ば過ぎから俄然ヒートアップ。「1点勝負」になりそうなゲームは、ゴール前の攻防が激しくなり、GKの好セーブが目立つ。0-0のまま延長戦に突入。90分で終わっていたら、忘年会までの時間を持て余しそうだったのではちょうどよかった。

延長でも決着がつかず PK 戦へ。天皇杯決勝の PK 戦はいつ以来だろう…。

10人目にもつれ込み、ここで GK が登場。各チーム一人ずつ「蹴りたくない」選手がいるのだろうと思っていたら、次のような事情だったようだ。

GK は最後にキッカーを務めることが多いが、両チームともに 10 人目となったのはこの日の PK が 11 対 11 ではなく、10 対 10 で行われたため。柏 DF 古賀太陽が試合中に負傷したことから、柏は古賀が PK を行えないことを申し出た。これを川崎 F が了承し、DF ジェジエウを外して互いに 1 人少ない状態で PK を行っていた。柏の井原正巳監督は試合後「川崎さんにも合わせていただいた形」と説明した。

サッカーの競技規則には、PK 戦においてどちらか一方のチームの競技者数が相手チームよりも多くなった場合、競技者数が等しくなるように競技者数を減らすと定められている。川崎 F の鬼木達監督はジェジエウを外したことについて「1人減らす必要があったので。前日の練習をみて決めた」と話した。

(12月10日 日刊スポーツ <https://www.nikkansports.com/soccer/news/202312100000070.html>)

表彰式まで見て 17:30 にスタジアムを後にして、ダッシュで渋谷へ駆けつけたが 10 分遅刻した。すみません…。

## 2. メインイベント：忘年会兼お宝映像上映会

ブラセリエにはすでに、我々を除く 5 名のサロンファミリーが集まり、お宝映像の上映が始まっていた。“定刻主義”が正しい選択である。

無理言って試合開始まで巻き戻してもらい（VHS ではないので「巻き戻し」はしないが）、改めて最初からみることができた。今年のお宝映像は、1983 年のラグビー日本代表のウェールズ戦。アウェーゲームである。ラグビーワールドカップが始まる前、ラグビーユニオンがプロフェッショナルリズムを受け入れる前、日本では大学ラグビーがものすごく盛り上がっていたころの試合である。大学 4 年次に中継をみて以来の観戦であった。嶋崎さんの思い入れが詰まった解説付きの観戦は非常に面白かった！

以下、時系列で。

18:15 ごろ … 乾杯。「お宝映像」上映開始

前半途中で映像が乱れる。電波の都合ではない。VHS を DVD に焼き直した映像を見ているのだから。

その調整をやってもらっている間に、自己紹介・近況報告の時間をとることにした。

19:00 ごろ … 自己紹介・近況報告タイム

はじめての方も多し。そもそもコロナ禍で、対面での飲み会はほとんどできなかったもので、ほぼ全員が久しぶり、またははじめましてである。「画面上ではお会いしていましたが」という人もけっこういたようだ。

中塚が口火を切り、筑波大学附属高校同僚の松本氏へ。松本氏は大阪の高校時代はラグビー部で、

大阪府知事の吉村洋文さんは一つ上の先輩である。筑波大で野外教育を専攻され、大学院を経て大阪府で教員に。縁あってコロナとともに筑波大附属高校に着任された人物である。10月の公開サロンに初参加。今回は奥さんとともに、プレイベントからの参加である。みどりさんとは一度沖縄料理屋で一緒したことがある。オープンな方で、サロン2002の雰囲気ですぐなじむだろうと思ったらそのとおりだった。

その後は嶋崎氏から順に近況報告。人の数だけある“人生”をこういう場面で披露しあうのは楽しい。対面飲み会はいいですね！

19:30 ごろ … 試合の残りをみる。おそらく後半の後半だったと思う。日本が少しずつ盛り返していく。歴史に残る好ゲームである。

20時過ぎにお宝映像は終わり、あとはみなでいろんな話をして盛り上がった。

21:00 ごろ … 気がつけばお店が設定した「2時間」をすでにオーバーしている。中締めして終了。残れる方はその場で2次会。中塚、嶋崎、奥山、野村、小松の5名が残り、引き続き濃い話をたくさんした。

22:15 ごろ … そろそろ帰りが気になってきたのでお開き。4年ぶりの忘年会兼お宝映像上映会もここまで。

ちなみにお店オーナーの徳田仁さんは、大学の同窓会が別の席であり、ほとんどそちらにいた。かなりの人数がいて盛り上がっていたようだ。

「ブラセリエ」。いいですよ。またやりましょう！

### Ⅲ. 参加者からのコメント（投稿順。12/20締切⇒12/30まで延長）

#### ◆中塚義実（NPOサロン2002理事長／筑波大学附属高校教諭） <12月23日>

12月9日の「忘年会兼お宝映像上映会」から3週間が経過した。すぐにコメントを書けば新鮮味があってよかったのだが、日々充実して過ごしていたらいまに至ってしまった（9月の限定サロン報告もこんな書き出しだった…）。

メチャクチャ充実の一日だった。元旦の楽しみだった天皇杯決勝がこの日に移ったことで、職場の同僚夫婦とサロン2002の仲間で楽しむことができた。やはりサッカーの現地観戦はたまらない！

（遅刻したのはホンマにすみません…）

「ブラセリエ」でみたお宝映像「ウェールズvs日本」の試合は、いまのラグビーとは別のスポーツと言ってもいいぐらい、違いが満載のゲームであった。嶋崎さんの解説にも助けられ、理解を深めながら見ることができた。

感じたことを順不同で（思いついた順なので「思いの重さ」に違いはある）挙げておきたい。

①スピンプスがない … 「最近の高校生はラグビー授業でカッコつけて、すぐスピンプスをやりたがる」と思っていたのは10年以上前のこと。私の学生時代にそんなボール操作はなかったという記憶は正しかった！ 嶋崎さんの説明によると、当時は革製のボールなので指にうまくひっかからなかったからスピンさせる技術はなかったとのこと。納得。

②スクラムの合図がない … 「クラウチ、バインド、セット」の合図に応じて組むのがいまのスクラム（少し前は違う言い方だったが合図はあった）。けど映像をみると、いつの間にか始まっている。相撲の立ち会いと同じである。こちらももとは両者のタイミング（気合）が合った時に立っていたものが、ラジオ放送が始まって（1928年）おしまいの時間が決まるようになり、「制限時間」の考えが導入されいまに至る。1983年のラグビーでは何の合図もないまま、スクラムが「ふわっ

と」始まる印象である。スクラムを組む8人×2チームのタイミングを合わせるのは相当大変だったろうし、そこに「うまい、へた」が、いまとは異なる意味で、あったのかもしれない。

- ③芝生がやたら深い … ラグビーの方がサッカーより芝を長めにそろえるのは当たり前。それにしてもスパイクが完全に埋まるぐらいのふかふかの芝生の上でのプレーは、転んだときの痛みは軽減されるが、走りやすさなどからはどうなのだろう。かなりしんどい気がする。
- ④トライは4点。ゴールを狙うプレースキックは下手 … ゴールを狙うための権利としての「トライ」に、いまでは5点が与えられるがこのころは4点。そしてトライ後のゴールがなかなか決まらないのが印象的であった。方法も異なる。いまならボールを乗せるためのマーカーのようなもの（キッキングティールというらしい）を芝の上に置き、その上にボールを、とんがった方が先になるように置いて、反対側のとんがった方を蹴るのが主流だが、そんな気の利いた用具はない。ふかふかの芝生の上にボールのとんがった方を下に置き、広い面をインステップでとらえる蹴り方である。私にはこの方がしっくりくる。しかし多くのキックはミスに終わる。用具の問題はあるが、そもそもキックのスキルが低いように思った。そう言えば大学4年か院生のころ、筑波大学でラグビーとサッカーのキッカーのキック力を比較する実験に立ち会った（横から見ていた）ことがある。ラグビー代表は早稲田大の本条和彦さん。サッカー代表はわれらが同期の風間八宏くんである（ヤヒロがいたので4年生のころか）。ラグビーボールを得意な蹴り方で二人が蹴ったら、両者とも狙ったところに飛んで行った。次に「トーキック（つま先）で蹴ってごらん」の指示。ヤヒロは狙い飛んで行ったが、本城さんはうまくいかなかった。いまのキッカーがやるとどうなるのだろう。
- ⑤いまだったらファールを取られるプレーが多々ある … 安全・安心な方向にルール変更が為されてきたいまのラグビーの感覚からすると「それアカンやろ」というプレーが多々みられる。当時やっていた仲間（ラグビー部員と仲が良かった）は大変だったろう。
- ⑥体つきがきゃしゃ … 印象としてはいまのサッカー選手の感じか。いまのラグビー選手とは比較にならないぐらい「ふつうの人」に近い。このころの代表選手には大学生もけっこういる。学生時代、ラグビー部員は筋肉の塊で、彼らは筋トレばかりしていたが、それでもいまと比べると全然違う。たぶん栄養や休養の部分が改善されたのだろう。「体つくりの科学」の導入と実践。ここが大きな変化だと感じた。

細かいことはほかにもあるが、大きなところでみると、1983年のこのゲームのころ、ラグビーのワールドカップはまだ始まっていなかった（第1回は1987年）。そしてラグビーユニオンはまだプロフェッショナルリズムを受け入れていなかった（プロ公認は1995年）。これらの変化がラグビーを大きく変化させたと言ってよい。

この試合があったのは、私が大学4年の秋である。自分の学生時代を振り返るよい機会ともなった。ラグビーとサッカーは兄弟のようなもの。サッカーの変化も同様に追いつけていきたい。

これもまたおもしろいテーマである。

#### ◆鳴崎雅規（国際武道大学） <12月29日>

1983年秋の日本代表対ウェールズ代表のテストマッチを久々に見た。24-29と惜しくも敗れたものの、この試合は素晴らしい試合だった。

当時大学3年生だった私は、この試合を同期の仲間たちと何十回見たことだろう。ここで金谷さん（明治大学一日新製鋼）がタックルした後すぐに起き上がってまたタックルに行くとか、このスクラムからは伝説のサインプレー「千田左（ちだひだり）」だとか、このラインアウトから大八木さん（同志社大学一神戸製鋼）が抜け出し、藤田さん（明治大学一日新製鋼）につないでトライだとか、すべて記憶している。そして、いつ見ても平尾誠二（同志社大学一神戸製鋼・故人）のプレーはカッコイイ！

この試合は、我が恩師である日比野弘先生（早稲田大学）が、「餓狼作戦」と名付けて、本気で勝

ちに行った試合だった。敵地・カーディフのアームズパークであるにも関わらず。この頃の日本ラグビーは、かなり世界に近づいていた。しかし、この後プロ化の波に乗り遅れて大きく後退することになる。

また、ラグビーというスポーツはこの頃から比べて大きく変化している。ルールも大きく変わっており、今とは別物のようである。なにしろトライは4点、ラインアウトはサポートなし（ただジャンプしてボールをとる）。安全性を高めるためと、トライが多く生まれるようにルールは大きく様変わりしている。だから、今のラグビーの方が、見ていてより楽しいと思う。そのあたりに気がついていただけたら幸いである。

#### ◆小松章一（行政書士／スポーツボランティア） <12月29日>

新日鉄釜石ラグビー部最強の時代の日本代表のラグビーを真剣に観たのは初めてかもしれません。日本がウェールズ相手に対等の試合をしていたことに衝撃を受け、後にワールドカップによる代表の強化に乗り遅れていたことを感じた試合でした。

歴史に残るいい試合を見せていただき、ありがとうございました。

#### ◆松本英樹（筑波大学附属高校教諭） <12月30日>

「サッカーは点が入らないのでつまらない」という言葉を聞いたことがある。しかし、天皇杯決勝を国立競技場でじっくりと観戦して、ゼロ対ゼロだからこそ高まっていく緊張感や変化する戦術、そして勝敗に対するあまりにも大きな喜びと悲しみ（悔しさ）を目の当たりにすると、「サッカーの醍醐味を十分に味わうことができた（さすが天皇杯決勝!）」と伝えたくなるような試合だった。試合が進むにつれて強く感じたことは、“試合前から大声援を送り続けているサポーターのためにも、選手たちは何としてでも今日は勝ちたいだろうな”ということだ。スタジアムの中は、エネルギーで満ちていた。

この天皇杯決勝の1週間前、同じ場所で100周年となるラグビー早明戦を観戦した。「雪の早明戦（1987）」をテレビで見て感動し、その後の吉田義人さんの活躍に憧れて高校からラグビーを始めた私にとって、初めて新国立の中に入り観戦するこの試合も特別なものだった。試合前に両校のOBOGが立ち上がり、堂々と腕を振って校歌を斉唱する姿には、大学スポーツの魅力を感じた。

スポーツを直接現場で観戦すると、テレビに映し出されるような各選手の素晴らしいプレーだけでなく、得点につながるまでのポジショニングや連係、控え選手のアップやベンチワークなど、チーム全体の動きを自分目線（自己流の解釈）で観ることができる。そして、一人ではなく仲間と一緒に観戦することで、答えのない答え合わせを「アレやコレや」と楽しむことができる。今回は茅野さんや中塚先生の胸を借りて“感想戦”を楽しむことができた。さらにこの日は、延長戦が渋谷のバルであった。

サロン2002メンバーの方々と一緒に美味しい食事とお酒をいただきながら、ラグビーについても語り合う機会を得た。本年度、高校の体育授業でラグビーをどのように教えるか（どのような授業が可能か？）をテーマに実践と研究に取り組んでいる私にとって、1983年のウェールズと日本の試合映像はすごく興味深いものだった（リフトの無いシンプルなラインアウトなどは授業で取り入れている）。みなさんのスポーツと絡めた自己紹介を興味深く聴きながら過ごす2時間はあっという間でした！

有難いことに今回のイベントと忘年会には、スポーツ観戦にハマっている妻も一緒に参加させていただきました。居心地の良い素敵な時間を過ごさせていただけたことに感謝しております。わが家では帰宅してからも再延長戦の熱いスポーツ談義が続きしました。「スポーツ」という共通のキーワードがあるだけで、生活が豊かになることを実感することができた一日でした。ありがとうございました。